

純粋持ち株会社制に

17年6月期 事業分野ごとに再編

福山コンサル



福山コンサルタントは、17年6月期をめぐり純粋持ち株会社の下に事業分野ごとの複数の企業を抱える体制に移行する。M&A（企業合併・買収）や組織再編により、持ち株会社の傘下にコア事業の建設コンサルタント、研究開発・人材育成、グループ会社の管理部門、M&Aで獲得する新ビジネスをそれぞれ担当する複数の事業会社を置く企業集団に移行。経営の効率化や研究開発の強

化などにつなげる。4日に福岡市内で開いた15年7～12月期の決算説明会の後、取材に応じた福島宏治社長が明らかにした。写真。同社は1日付で、グループ各社の管理業務の集約を目的とした子会社「福山ビジネスネットワーク」（FBN）を設立した。グループの研究開発の事業化促進とした。今後、研究開発部門は構造物の診断などを手掛ける別の子会社であるヘルス・モニタリング・ビジネス（HMB）に統合し、研究開発と次代の人材育成を行う新会社を設立する。

福島社長は「おおむね1年半程度で（FBNを）切り分けられる」（福島社長）とし、17年6月期をめぐり「建設コンサルタントをコア事業に、それ以外の分野も抱えた企業集団に移行する」との見通しを示した。今後、建設コンサルタント事業では地方創生の施策や公共施設再編計画、PPP・PFI関連の業務受注に注力。受注の大幅増を受けて体制を強化した鉄道分野はリニア中央新幹線関連の受注拡大を目指す。建設事業マネジメント分野は施工管理から事業監理に業務を拡大する。

新規事業のうち海外展開はベトナムで受注している案件化調査の本格的な事業化を予定。他地域

への拡大も目指す。福岡市内の企業との連携を足掛かりに福岡県内企業の海外進出も支援する。交通ICT（情報通信技術）事業は国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）に登録申請中の自動車交通観測システム、申請準備を進めている移動データ取得システムを本格稼働させ

る。モニタリング事業は橋梁モニタリングシステムと水位センサーシステムを他地域などに本格展開する。15年7～12月期の業績は受注高、売上高とも前年同期を上回った。足元の受注も堅調に推移しており、通期計画は変更しないとしている。